

全米日系人博物館が2022年に開館30周年を迎え、新たな時代に向けた一步を踏み出されたことをお祝い申し上げます。また、今日まで、博物館への御支援を通じ、日米間の関係強化へ貢献されてきた日系人の皆様、企業・団体・個人の皆様に改めて御礼申し上げます。

ポスト冷戦期が終わりを迎え、国際社会が歴史的な転換点にある中、地域と世界の平和と繁栄に大きな役割を果たしている日米同盟の真価がこれまで以上に問われています。揺るぎない同盟関係を支えているのは、重層的な人的交流により培われた両国民の間の信頼と友情です。

特に、過去一世紀以上にわたり、幾多の困難を乗り越えて米国社会の繁栄のために貢献し、信頼と尊敬を勝ち取られた日系米国人の方々の存在と御努力は、日米両国民の間の相互理解の深化に寄与するとともに、日本と米国の日本人を勇気づけるものでもありました。

全米日系人博物館は日系米国人の歴史を保存・継承し、日米両国の国民がその歩みについて理解を深め、両国の社会をより深く知る良い機会を提供しています。私自身、2013年に外務大臣として訪問した際に、その歴史の重みに触れ、日系人の皆様への尊敬の念を新たにしました。

私の故郷、広島先輩である宮澤喜一総理大臣は1993年に、全米日系人博物館が日米両国の架け橋の一つとなることを願う、とのメッセージを寄せられました。博物館は30年の歴史の中でまさしくその架け橋としての役割を立派に果たされ、次なる一章を切り拓こうとなさっています。

このような日系米国人の歴史を踏まえ、2022年5月にバイデン大統領を日本にお迎えした時に発出した共同声明で、私と大統領は、日系米国人の方々の歴史、貢献、文化的伝統に敬意を表すとともに、若い世代の日系人の方々に日米の相互交流や協力への一層の参加を呼びかけました。日系人の方々を含む若い世代の皆様が先達の記憶と遺産を継承し、新時代の日米関係の担い手として我々の後に続くことを願ってやみません。

全米日系人博物館が、皆様の御理解と御支援を通じて、民主主義や人権といった普遍的価値を共有するパートナーである日米両国の間の絆を若い世代の方々に受け継ぎつつ、更なる飛躍を遂げられることを期待しております。

日本国内閣総理大臣

岸田文雄